

## ② 授業のオンデマンド化

### 1 授業動画配信について

#### (1) 目的

新型コロナウイルス感染症等が原因で、一定期間学校で授業を受けることができない生徒に対して、学習支援として授業動画を配信し、学習保障を行うことを目的とする。

#### (2) 期間

4月18日(月)～3月15日(水)

#### (3) 方法

ア 学年ごとに類型等に留意しながら、動画を配信する代表クラスを決定する。具体的には、第1学年は1クラス、第2学年は理系、文系から1クラスずつ、第3学年は理系、文系I、文系IIから1クラスずつ代表クラスを決定する。

イ 代表クラスにおいて授業担当者がそれぞれの授業を録画する。

ウ 1日の録画分を学年の「配信担当者」が動画の体裁を整えた後、配信する。

エ 生徒は後日動画を視聴する。

#### (4) 留意点

ア 動画は共有ドライブを介して配信する。

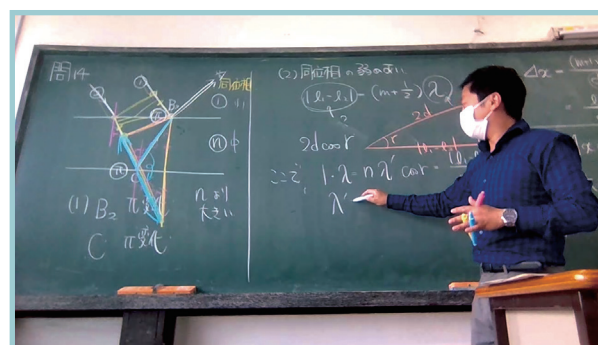
イ 1週間程度をめぐりに、配信した動画は随時削除する。

ウ 動画を配信するにあたっては、不適切な場面がないかを確認するために、編集を授業担当者が行い、学年の「配信担当者」に提出する。

エ 授業を録画しない教科・科目については配信する動画を別に準備する。

オ 生徒にとってこの措置は、出席できなかった授業の補助として活用するものであり、この動画の視聴をもって授業に参加したことにはならない。すなわち、履修要件には該当しない。また、このことは生徒に周知する。

### 2 配信動画の一例



※実際の授業動画は以下のQRコードから視聴できます。



リンク先：<https://youtu.be/BhJqkEGzbos>

## ③ 教科等横断的カリキュラム(糸高志学)

### 1 1年生事跡

4月14日(木)

糸学説明

自立と協働の体験学習

5月12日(木)

糸学ガイダンス(糸高チャンネルで配信)

・糸学の概要説明と探究ノートの配付。

6月3日(金)

文化祭(3年生糸高志学発表会)

・先輩の発表を聞いて感想をChromebookで入力。

6月23日(木)

基調講演事前指導

・SDGs新聞を読み各記事と関連のある目標を考え、グループで話し合う。興味のあるSDGsの分野を記入。

7月11日(月)

基調講演「なぜSDGsを学ぶのか」

北九州市立大学 眞鍋和博先生

・SDGsワークシートにメモ、教室で感想を記入。

9月1日(木)

糸島市出前講座 事前指導

・糸島市総合計画を読み、知識を深める。

9月8日(木)

糸島市出前講座①(会議室から糸高チャンネルで配信)

糸島市役所 企画秘書課 立石 雅弥氏

・糸島市総合計画 基本目標について講義を聴く。

10月13日(木)

糸島市出前講座② 糸島市役所

#### 講座1

地域の子どもは地域で育てる(生涯学習課)

#### 講座2

参画と協働のまちづくり(コミュニティ推進課)

#### 講座3

多文化共生のまちづくり(コミュニティ推進課)

#### 講座4

防災講座(危機管理課)

#### 講座5

きて!みて!いとしま(ブランド政策課)

#### 講座6

はじめよう省エネと創エネ(環境政策課)

#### 講座7

医療・看護系クラス向け講座

※事前に興味のある講座をFormsでアンケートを行い振り分け

1月12日(木)

課題発表準備①

・スライドでのまとめ方の説明。  
・基調講演、糸島市役所出前講座から知った糸島市の現状、糸島市の課題を考えてまとめる(論理コミュニケーションの設計図形式で)。

1月19日(木)

課題発表準備②

・スライド作成、原稿準備

2月21日(火)

課題発表①(各クラスにて実施)

・グループ内で発表(Chromebookでスライドを見せながら)。  
・グループの代表を決める。

3月2日(木)

課題発表②

・各グループの代表がクラスで発表し、付箋に良い点と悪い点を書かせて相互評価させる。

### 2 2年生事跡

4月13日(水)

糸学オリエンテーション

・分野・班に分かれて自己紹介。  
・ビデオを視聴して1年間の活動の流れを知る。  
・ワークシートに沿って興味のある課題を見つける。

4月20日(水)

・班のメンバー再編成と役割分担。

・ワークシートに沿って個人の課題を共有し班の課題を設定。

※外部サポート団体来校

4月27日(水)

・ワークシートに沿って班の課題を設定する。

・データを検索し課題について現状・原因などを考える。

5月25日(水)

- ・ワークシートに沿って、課題の解決方法(仮説)を考える。

※外部サポート団体来校

6月3日(金)

文化祭(3年生糸高志学発表会)

- ・3年生の発表を聞き、感想をワークシートにメモする。

7月6日(水)

- ・仮説を検証するための情報収集の仕方を学び、調査方法を決定する。

※外部サポート団体来校

7月13日(水)

- ・ワークシートに沿って探究活動の計画を立てる。(アンケートの内容を考える、糸島市役所への質問事項をまとめる等)。

※外部サポート団体来校

<夏休み>

糸島市役所へ質問送付(全分野一括)

アンケート、インタビュー、現地訪問、実験等(各班)

8月24日(水)

- ・夏休みにおこなった探究活動の情報共有。

※外部サポート団体来校

8月31日(水)

- ・収集した情報の整理と中間発表の形式や日程の確認。

※外部サポート団体来校

11月17日(木)

- ・ワークシートに沿って情報を共有し、解決策を模索する。

※外部サポート団体来校

<冬休み>

- ・前回のワークシートを使い解決策を深掘りする。

1月11日(水)

- ・情報共有・発表タイトルの確定、中間発表準備(スライド作成)。

※外部サポート団体来校

1月18日(水)

中間発表準備

- ・スライド・読み原稿作成。

※外部サポート団体来校

1月25日(水)

中間発表予行

- ・スライド・読み原稿の修正。

※外部サポート団体来校

1月31日(火)

- ・HRの時間を使い、中間発表の最終確認と係の事前指導を行う。

2月1日(水)

中間発表

- ・糸島市職員の方による講評(当日参加できない班の分は、後日書面にて講評をいただく)。

※外部サポート団体来校

2月21日(火)

- ・糸島市職員の方からの講評をもとにスライド・読み原稿の修正を行う。

### 3 3年生事跡

4月13日(水)

- ・糸島市役所からの中間発表講評用紙をもとに発表原稿(スライド)と読み原稿の修正、発表練習を行う。

4月27日(水)

分野別発表会

- ・評価シートに基づき相互評価を行い、代表班を決定した。

※外部サポート団体来校

6月3日(金)

文化祭で各分野代表班による発表

**教育分野** F班

「子育て支援事業」

**福祉分野** H班

「安心して任せられる介護福祉について」

**街づくり分野** D班

「観光客が利用しやすいような公共交通機関の利用」

**P R 分野** H班

「糸ゴン GOGO サイクル糸島の観光地の課題と対策」

**農林水産分野** E班

「糸島ブランドを広げよう」

商工・観光分野 G班

「糸島市内の宿泊施設をもっと利用してもらうためには」

環境分野 E班

「糸島の海をきれいにしよう」

理系探究分野 E班

「糸島高校付近の天気を雷山にかかる雲から予測しよう」

※糸島市役所・ラヂオいとしま・学生団体 WITH- Ü  
・学生団体 iTOP 代表8名による講評

2月27日(月)

「糸学のみり」発行

4 生徒作成スライド (1年生)

(1) 1106 垣岩 芽吹

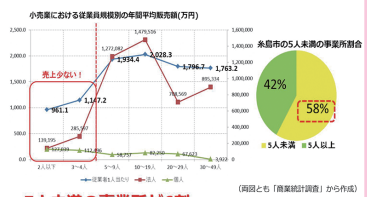


【意見】

・観光事業以外の  
収益が少ない

小規模事業者に課題がある！？

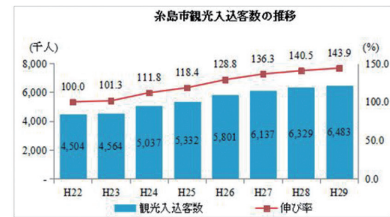
課題のポイントを絞り込んでいく。



5人未満の事業所が6割。  
この層の販売額を増やしたい！

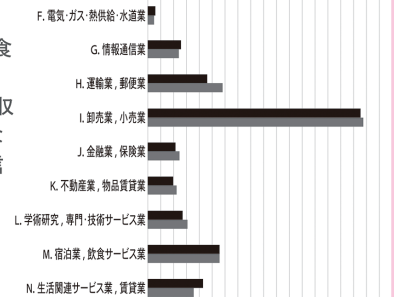
【根拠】

・糸島市の観光事業が約60%の収益を占めている。



【事例】

・産直施設や飲食  
業は収益がいい  
が、それ以外の収  
益があまり良くない。  
(自治体通信  
ONLINE)



【解決策】

・糸島市には小規模事業者が多いので、糸島市が開発  
援助を行う。そうすることで観光事業以外の収益が増える。



(2) 1205 今村 野々花

## 糸島市の観光について

1年2組5番 氏名 今村野々花



### 【意見】

- ・糸島市の観光スポットは駅から遠く行きにくい



### 【根拠】

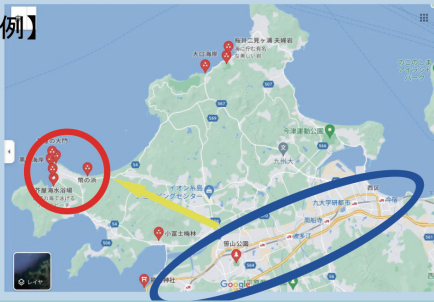
- ・糸島市には駅が少ない(10個)
- ・駅から観光スポットまでのバスの本数が少ない
- ・観光スポットが多い

糸島市の有名観光スポット

- ・桜井神社 <https://www.kyuu.com/kankou/arealis/18374/>
- ・白糸の滝
- ・牡蠣小屋
- ・桜井二見ヶ浦 など



### 【事例】



- ・糸島の有名な牡蠣小屋はJR福吉駅から徒歩10分かかる
- ・桜井神社は前原駅からバスで30分歩きで10分
- ・前原駅から桜井神社まで1時間に1本しかバスがない



### 【解決策】

- ・観光スポットから近い駅をつくる
- ・駅からバスの本数を増やす



シンプルな駅名でなく『二見ヶ浦前駅』のようなユニークな名前をつけると観光客もわかりやすい駅も増える！！



(3) 1827 中原 菜美

## 糸島市 共生のまちづくり

## 多文化

1年8組27番 中原 菜美



### 〈現状〉

近年、糸島市に移住する外国人が増加

(九大の移転による留学生、教員の移動)

⇒ベトナム、中国、ネパールなどのアジア系

⇒留学生、技能実習生



日本の企業で技術や知識を得て、母国の発展に活かす人々

### 〈意見〉

日本人市民と外国人市民との間に  
**トラブル**が発生している！

### 〈根拠〉

- ・日本人市民から外国人市民に向けて **苦情**が発生している
- ・外国人市民が糸島市の **ルール**を知らない



**〈事例〉**

**「トラブル内容」**

- ・騒音
- ・ゴミの捨て方
- ・自転車の乗り方
- ・駐車・駐輪問題

**〈事例〉**

**「外国人市民の方へのアンケート」**

日本でのルールやマナーを知らなくて困ったことはありますか? (n=413)

はい 92%

どんな方法で学びたいですか?

- 日本人から 53%
- インターネットで 40%
- 外国人のネットワーク 5%

外国人が知らない日本のルールやマナーは「ゴミ出し」と...

<https://primos.jp/> マーケティング・リサーチ

**〈解決策〉**

- ・糸島市のルールについての紹介動画を作る
- ・ゴミ捨て場に様々な言語で注意書きを書く

(☆やさしい日本語)

**〈やさしい日本語〉**

- ・外国人
- ・小さな子ども
- ・高齢者
- ・障害者

**みんなが読める**

原文

洪水警報が発令されました。避難してください。

やさしい日本語

水があふれる 災害である 洪水 警報 (とても 強い 注意の お知らせ)が だされました。逃げて ください。

**みんなが「市民」**

**糸島市の福祉について**

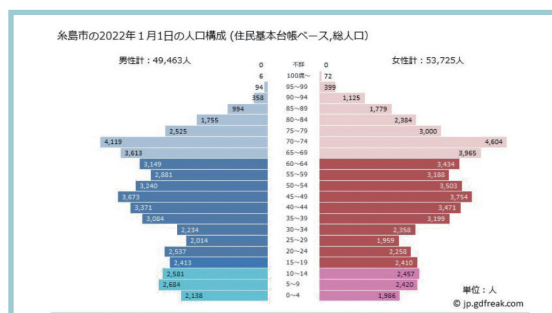
1年9組6番 氏名 井上 諒英

高齢者の増加に伴う、救急と老人ホームの数

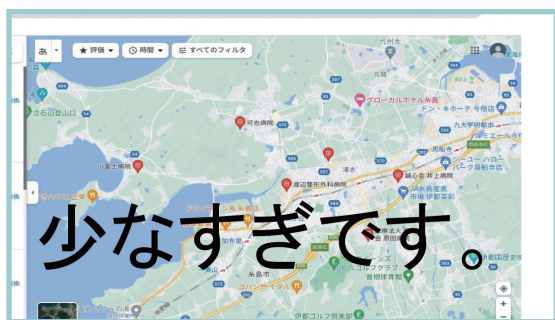
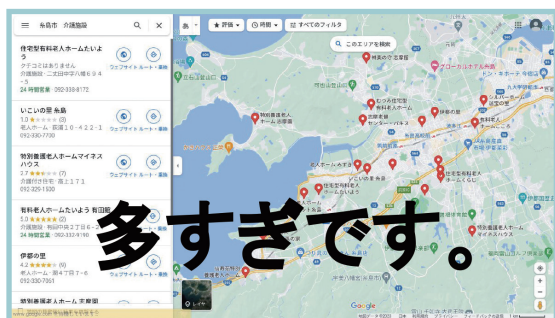
糸島の人口 9万人

5万人

2万人



## 救急病院と老人ホームの比較



- ・糸島市は老人ホームが多すぎる。約20件
- ・糸島市の人口の高齢者が占める割合約40%。
- ・救急車が2台しかなく緊急時の出動に限りがある。

自宅介護サービスを取り入れて介護施設を減らし救急病院をなるべくまばらに建設する。空き地が多いので広い土地などは急患センターを建設する。南に集中しているので、そして、寄付金を募り救急車の台数を増やす。

## ④「論理コミュニケーション」「統計学」

### 1 目的

社会で必要とされる論理的思考力・判断力・表現力を育成する。

### 2 実施計画

#### (1) 論理コミュニケーション

7月22日(金) 第0回

論理コミュニケーションの概要説明

・力試し課題に取り組む。

<p>今日のメニュー</p> <p>1. 力試し ～今の力を知る～</p>	<p>この授業とは</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「論理的に記述する力」を伸ばす授業です。</li><li>・1年間の授業を通して「論理的に書けるようになった」と皆さんに実感してもらいたいと考えています。</li><li>・3年後の自分が「自分で自信をもって文章を書けるように」今から学んでいきましょう。</li></ul>
<p>受講前の論述力を記録します</p> <p>・授業で論述の方法を学ぶ前に、皆さん自身がどのような文章を書いていたのか記録に残したいと思います。</p> <p>残りの時間で力試しに挑戦しましょう</p>	<p>力試し</p> <p>学校に言いたい事は何か？ というテーマで600字以内の文章を書いてみましょう。</p> <p>皆さんがいつも書く文章の書き方で書いて下さい。「成長」を実感するためのものなので最初から素晴らしい文章を書く必要はありません。</p>

7月25日(月) 第1回

「論理コミュニケーションとは」

・慶應義塾大学SFC研究所 上席所員 井上孝志氏  
来校。対面による講義。

7月26日(火) 第2回

「文章の設計図を身につけるI」

・9組が井上先生の遠隔講義を直接受け、その様子を他クラスに糸高チャンネルで配信（以後検定以外はこの形式）。



7月27日(水) 第3回

「文章の設計図を身に付けるII」

7月28日(木) 第4回

「1回目検定」



10月27日(木) 第5回

「事例に経験・観察」

11月10日(木) 第6回

「演習」

11月17日(木) 第7回

「演習・読み合い」

12月1日(木) 第8回

「検定返却及び解説(1回目)」

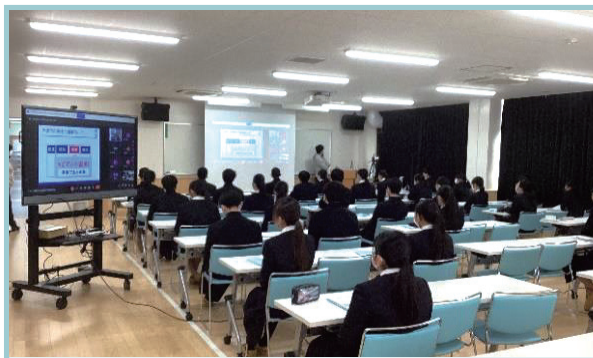
※事前に教員への解説あり。



12月8日(木) 第9回  
「2回目検定」

12月15日(木) 第10回  
「事例の演習」

12月22日(木) 第11回  
「事例の演習」



12月26日(月) 第12回  
「事例の演習」

12月28日(水) 第13回  
「ルール5」

1月26日(木) 第14回  
「検定解説」

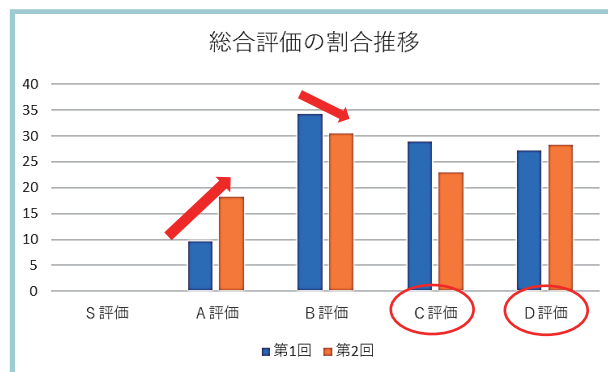
2月2日(木) 第15回  
「3回目検定」

### 3 授業検定結果分析

総合 評価	第1回				第2回			
	%		人数		%		人数	
		累計		累計		累計		累計
S	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0
A	9.6	9.6	33	33	18.3	18.3	63	63
B	34.2	43.8	117	150	30.5	48.8	105	168
C	28.9	72.7	99	249	23.0	71.3	79	247
D	27.2	100	93	342	28.3	100	97	344

・A層が増加（人数では33名→63名とほぼ倍増したことがわかる。パーセンテージでは9.6%→18.3%と2桁になった）。

- ・B層からA層への移行（30名）に比較して、C層からB層への移行（20名）は少なかった。
- ・D層からの移行が基本的にみられない。
- ・C層からD層への移行現象が見られる。答案としては、白紙に近い状態のものが見られた。



### 【評価項目ごとのA・B層人数の推移】

	第1回	第2回	第3回
評価項目1	89	94	意見
評価項目2	76	82	
評価項目3	41	60	根拠
評価項目4	4	22	事例
評価項目5	0	0	
評価項目6	48	51	構成
評価項目7	48	57	
評価項目8	38	28	
評価項目9	70	65	
評価項目10	4	9	文章
評価項目11	0	0	構造
評価項目12	22	22	字数
評価項目13	0	2	事実
評価項目14	91	57	目的

「意見・根拠・事例」の各項目は、着実に習得率が上がってきている。

「構成」の項目では、グループ化と意見記述の習得率が上がっている。「構成」の項目で、根拠・事例を正確に写すこととグループ名が付けられていない。ルールの正確な運用を忘れていている。

「事実」を正確に書くことが出来ていない。事例に事実を書くのではなく、非事実（推測や考えなど）が書かれている。

■ 第1回より上がった項目 (%)

■ 第1回より下がった項目 (%)

2回検定を通して、上位層の論理的に記述する力は向上した。また、評価項目1～7までの事項については全体的に向上し、具体的に事象を考え、根拠を整理していく力は身に付いた。しかし、事例を正確に書く上での文章構成やその表現に苦手意識を持つ生徒が多く、インプットされた内容を上手にアウトプットできず、投げだしてしまう生徒が見られた。



## (2)統計学

8月30日(火) 第0回

衛星データについて概要説明

- ・各班代表に対して対面で実施。

8月31日(水) 第1回

衛星データの利活用について

- ・データ利用相談会を実施。



2月21日(火) 第2回

遠隔講義「宇宙から地域を救え～衛星データで未来を創る～」

千葉工業大学 惑星探査研究センター 前田恵介先生

- ・スクリーンに映る講義を聞きながら、Google フォームへメモを入力。



### 【講義概要】

「データの分析・統計的探究プロセス」につながる内容として、身近な題材「観測気球」をとりあげ、宇宙から地球上のデータを収集する方法について学んだ。

### 【生徒のメモ】

- ・成層圏気球実験

気球が高度30 km ぐらいで破裂するまで飛ばす

- ・気球実験

気球は世界で初めての飛翔体(1781年)

気球は外側の気と内部ガスの密度差で浮いている

燃料は、水素が安全でよく使われる

NASA などでも気球は使われている

スーパープレッシャー気球 破裂しない気球のこと

科学気球は飛行機やロケットより安く準備期間が短い

普段は20～50 km位を飛んでいる -50℃位になる

- ・モンゴルでの成層圏気球実験

日本ではゴム気球で実験している

モンゴルは、山が少なく海がないので回収がしやすい

12月になると-30℃位になるから専用のゲルを作つてそこから気球を飛ばしている

### 【生徒の感想】

- ・実験を行うにはその実験に適した場所や道具などをちゃんと考えなければいけないと分かったし、データがたくさんあったから結果を出すために何回も実験を繰り返していることがわかりました。

- ・現在、多くの地球上のデータが空から取得されていることや、気球を使った実験が世界的に行われている理由や仕組みを知りました。学生に対する教育活動や、宇宙フェスなどのイベント、糸島沖から気球を上げているなど、以外にも身近に有るものなのだという事に驚きました。気球については、なんだか問題になっているな、というぐらいの認識でしたが、今回の話を聞いて興味が湧いたので自分でも今後、色々調べてみようと思いました。

- ・成層気球実験についての講義を受けて、気球は近代的なものとはかけ離れているという考えが大きく変わりました。気体の密度の差を用いて、ヘリウムや水素で上空に気球を飛ばす実験は、理系的で、原理を聞いていてとても楽しかったです。気球での実験は、アナログな実験だけでなく、過酷なマイナス50℃や真空といった環境で耐えられるための実験を行ったり、精密な計算を通して落下地点を予測したり、未知の微生物を発見できるかもという好奇心もあり、想像を超える実験内容でした。